

山口先生「転換し続けている世界で生きる」への質問・コメント	山口先生からの回答またはコメント
講義内容について	
<p>月曜と、水曜に、山口先生の講義をとっている者です。この講義を受けるまで、山口先生が、安田講堂の事件に関わっていたことや、捕まっていたことは全く知りませんでした。やはり、その位の行動力がないと、有名な研究者になれないのでしょうか。有名な研究者の方々（とはいっても数名しか知りませんが...）は、おもしろい人生を送っている方々が多い気がします。</p>	<p>ま、普通の講義で、特に触れるべきことでもないからね。私は別に「有名な」研究者ではないが、行動力が研究に絶対に必要だというわけではない。「あきらめない」ことは絶対に必要だね。有名、無名にかかわらず、誰の人生も一回限りで「面白い」のであって、つまらない人生というのは、本人がつまらないとおもうからではないかね。</p>
<p>安田講堂事件に参加したと聞いて大変驚きました。若い人が何かに乗じて大きな事をやりたいと思うことの類いだと思いました。現に僕もそんな感じのことは思っていますが...やはりそれは今の時代に限らないことを知りました。かといって行動に移すような勇氣はもっていません。</p>	<p>便乗するというのは聞き捨てならぬ。講義で説明したように、私たちは、それが大きく言えば、人類に必要なと思ったから運動をしたのであって、何かに乗じて大きなことをやるというのは、つまらん犯罪者の考え方だろう。そういう風にしか考えられないから、君は、何も行動に移せないのだよ。</p>
<p>”インテリがへろへろとなる”がどういうことか説明を加えて頂きたい。</p>	<p>歴史上、どんな時代も、中途半端なインテリは、何か、自分は先が見えそうな気がして、あっちにふらふら、こっちにふらふらするのだよ。知識が、真の力になってないのだね。</p>
<p>私たち、今の学生は革命を起こしたいという気持ちはあまりないけど、先生の時代は学生が能動的で、今の学生にないものだと思います。</p>	<p>その通りだ。しかし、いま、すべてが平穏に見えるように、マスコミ、いまだってネットの情報が抑え込まれているだけで、我々の時代と、社会の矛盾は何らの変わりはないのだよ。君たちは、要するに、飼いやられているのだ。ということを実感するかどうかだね。</p>
<p>話についていくのが大変でしたが、とても面白い話でした。恐れずに戦うことも大切ですし、考えてみることも大切かもしれませんね。</p>	<p>“ことも大切”なのではない。考えることは、君の人生を自分のものにするか、他人にコントロールされたままで一生終わるかという死活の問題なのだよ。</p>
<p>当時暴力革命ではなく選挙で共産主義者を押し上げようという考えは無かったのですか？</p>	<p>もちろん、どの時代にもそういう勢力はいた。私たちの時代では、日本共産党・民青がそうだった。我々は、権力が差し向ける暴力—警察機動隊—と戦うと同時に、日本共産党・民青の、黄色いヘルメットを被った暴力とも闘ったのだよ。つまり、彼らも、究極のところ、暴力が最終的に物事を決めるのだということは認識していたわけだ。選挙のスローガンではなく。</p>
<p>先生が学生運動に関わるきっかけとなった”転換点”は何ですか？また、今の学生間でそのような運動がおこらないのはどうしてと考えますか？</p>	<p>講義でも言ったが、パリの5月は、世界的に、その転換点だったが、日本では、それに先立つ1967年10月8日の羽田闘争だね。興味があったら調べてみたまえ。いまの学生で、そういう運動が起こらないのは、抑え込まれて、飼いやられているからだろうね。自分でものを考えないように、幼稚園からたたき込まれている、そのことを自覚するものは、必ず、現れると思う。</p>
<p>学生時代に様々な活動をされていたと思いますが、後先のことを考え躊躇することはなかったのですか。</p>	<p>勿論、おおありだ。当時の学生だって、君が思うように、根っからのバカであったわけではない。そういう躊躇を抱えながら、しかし、変革が必要だと思ったから闘ったのだ。</p>
<p>自分の転換点を世界目線で考えたことがなかったので、新しい視点だった。思えば、これら世界的転換も市民の力で起ったのだろう。そう思うと、けっして広すぎない視点なのだろうか...と考えた。</p>	<p>その通りだ。次の質問への返答にもなるが、すべての人間は、時代の子だ。自分だけで孤立しているわけではなく、人類史の一員として、時代の担い手として、そこにあるのだ。世界史は、転換をしてきて、現在があるので、我々は、その中で自己形成し、主体的に活動するのだ。</p>

<p>学生の頃、なぜ革命が必要だと思ったのか。学生運動は、個人個人が強い目的をもって参加したものであるよりも、むしろ周りに流されて参加した人が行ったものであるように思われる。流されて参加した人たちをどう思うか。また、学生運動に限らず、周りに流されて何かを行うことをどう思うか。何らかの運動、行動において他者に危害を加えることをどう思うか。</p>	<p>君のように、賢いつもりで（古語で言えば、さかしらげ、だな）学生運動は、周りに流されて参加したものが行ったというのは、君が、自分で考えたことではなく、君の周りの大人、具体的には親とか先生に吹き込まれた考えなんだよ。それは、たとえば、今、沖縄で、基地反対の座り込みをしている人々を、日当をもらって動員された人たちだと、罵るネトウヨたちと同じ視点なのだ。我々は、決して、周りに流されて何かを行ったのではなく、それが正しいと信じたからそうしたのだ。君は、頭の隅々まで、現在の腐った大人たちに吹き込まれた考えに支配されており、それが、あたかも賢いことのように思わされているだけなのだよ。</p>
<p>1968 は現在歴史的な再評価がなされつつあります。（例：NHK や独・仏・ブラジルのテレビ局による「1968」、映像の世紀など）。しかし 1968 から始まる一連の行動は何を生んだのか？ 結局何も変わらなかったのでは？</p>	<p>これも、上の質問への返答と重複するが、何も生まなかったというのは、テレビやマスコミを通じて、権力が、君たち、無知な一般の若い人に必死になって吹き込もうとしている考えなのだよ。確かに、我々の目指した世界革命は実現しなかったが、世界と社会は大きく変わった。君が、そういう宣伝に曇らされた眼と頭で、偉そうに断罪するのは、君の無知を示すもの以外のなにものでもないのだ。</p>
<p>革命という現状に対する不満から生じるものだと自分は思っています。その不満が賛同できるものであったとしても、多くの行動は不満の原因（と思いでいるもの）を取り除こうとするだけでそれ以上の何かがないように思います。最終的なゴールのイメージと、そこに至る具体的な道筋が見えないまま行動を起こすことが失敗の原因のように思われるのですがどうお考えでしょうか？ そういった運動や運動家について表面的にしか捉えていないので誤解してはすみません。</p>	<p>全くの誤解だ。立て続けに、同じような質問が続くので、回答するのに疲れてきたが、君が、何故、そのように思うか、という原点に立ち返って考えてみたまえ。君は、本当に自分の頭で考えているかい？ 親や、周囲の大人に吹き込まれたあれやこれやを忠実にオウム返しに繰り返しているだけではないのかい？</p>
<p>学生時代は学生運動が全てであったというようなことをおっしゃっていましたが、自分の専攻分野の勉強はいつなされていたのですか。また社会の変革のために自分の分野を変えて変革に集中しようと思わなかった理由は何ですか。</p>	<p>私は、今の、というか、40代以降に専門としたバイオメカニクス・流体力学は、30代以降に、独学で、学んだ。勿論、周囲に、素晴らしい同僚たちがいて、色々教えてもらったが。そもそも、私の卒業した（ことになっている）医学部では、力学の基礎も開講されていない（現在も）。途中で、革命家であることを断念したのは、つまり、敗北したからだ。その経緯は、講義で述べたので、資料を参考に自分で調べてみたまえ。</p>
<p>50年前には革命運動が盛んだったということですが、日本の50年前の学生と現代の学生のちがいは何なのだろうと考えられました。</p>	<p>学生などと言うものは、100年前も、50年前も何も変わりはない。違いは、状況だよ。今は、学生たちが、目覚めて、立ち上がることがないように、体制・権力が必死になって抑え込んでおり、それが奏功して、君たちは、自分でものを考えなくなっているということがすべてだ。</p>
<p>転換していく世界で生きること後悔していることはありますか。今後の展望などありますか。</p>	<p>私の個人的モットーは、宮本武蔵が五輪の書で述べた「我、ことにおいて悔いず」だ。何も後悔していることはない。そのときどき、学生の時も、臨床医だった時も、そして、研究者になったときも、それぞれの状況で精一杯生きてきたと思う。ただし、今後の展望は、ない。いま、70歳だから、あと、平均余命が15年しかないからね、いまから何か新しいことを始めるには時間がない。死ぬだけだ。それも別に怖くはないがね。</p>

<p>社会主義は理想的なもので、継続的な実現は不可能だったと考えています。(残念ながら...) なぜなら、努力が報われず、経済が破たんしてしまうから。これに対して、先生は、社会主義が継続的に実現すると思われませんか？</p>	<p>別の質問にも答えたが、そういうさかしらげな断罪は、君が、これまでのたった18年間の間に、変革をおそれる親と先生と世間に吹き込まれたものではないかと、反省してみたまえ。君は、本当に自分の経験と学習の結果として、そういう風に考えていると言えるかね。もし、言えるとしたら、それは、とんでもない傲慢と言わざるを得ない。我々を含め、人は、宣伝に弱いのだよ。自分の考えの、よってきたる所以をよく反省したまえ。</p>
<p>歴史的な出来事とその背景やそれがもたらした変化、なにが重要なのかななどをあまり理解していなかったので話が少し難しかった。世界の歴史の中の転換点を知ると個人のような小さいことだけでなく視野が広がって面白いと思った。</p>	<p>その通りだ。世界史をしっかりと勉強したまえ。何が専門であったとしても、これまでの人類の営為を反省しなければ、同じ過ちを何度でも繰り返すことは、まさしく歴史が証明している。</p>
<p>最近では、共産主義や学生運動が人心を動かさなくなりました。これは何故だとお考えですか？また、現在において下火となった学生運動にもまだ意味はあるのでしょうか？</p>	<p>これについては、上の別の質問者にも回答したが、すべては、体制・権力が必死になって、君たちを洗脳し、君たちが、それを疑わないことにあると思う。ちょっと、調べれば、世界は矛盾に満ちており、悲惨な人々は世界中にいる。意味があるかどうか？問題ではない。その教訓をどう活かすが問題なのだ。</p>
<p>山口教授が自分のことを共産主義者だと言われているに驚きました。プロレタリア革命があまりうまく行かず、資本主義が王道となってしまった今日、何故かやはり共産という言葉はあまりイメージが良くない気がする中、そのような一種過激な言葉を言えるのは、本当になぜ社会主義が成功しなかった理由を求めているからだ、強く悟り、影響をもらいました。</p>	<p>そうだ。歴史上、アイディアとしての共産主義は、何度も考えられ、その度に、そのために闘った人々がいたが、その時々権力に叩き潰されてきたのだ。私は、別に過激を意図して共産主義者であると言っているのではない。社会主義、とりわけ、ロシア革命の型のそれが、プロレタリア独裁の段階（それは、共産主義より、はるか前の過渡期である）で潰え去った理由を今でも、考えている。残念ながら解答は見いだしていないがね。</p>
<p>共産主義を目指す理由は何ですか。達成されるべき共産主義社会はどのような社会ですか。</p>	<p>それが、分からないのは、私を含めて、すべての人が、現在の資本主義社会を唯一のものとして受取り、上の質問にもあったが、人間性というものが、変わらない（つまり、人は、すべて自分の得になることしかしないという考え）に、どこかで捕らわれているからだと思う。プロレタリア独裁が失敗したのは、いわゆる社会主義経済が失敗したからであると、マスコミも、世間も無反省に言っているが、それは、きちんと解明されていない。現代の技術革新の成果をもとにすれば、別の道もあり得ると私は思っている。たとえば、今、世界の富のほとんど全てを所有しているGAF(A) (Google, Amazon, Facebook, Apple) の所有を解体することを考えてみたまえ。これは、すべて情報技術に基盤をおいており、それが、一握りの富豪たちに独占されている現状は、極めて悪いものである。これは、レーニンが帝国主義論で述べたことだがね。</p>
<p>”革命”、”革命運動”って自分の日常からは何かすごくかけはなれたものだと感じていたけれど、そうではないと思った。転換し続けている世界に実際自分は生きている。世界のこと日本のこと今この瞬間に起きている様々なことにもっと関心を向けて、アンテナをはって自分の問題としてとらえることを大切にしたいと感じた。50年前のこと今につながっているピースの1つで、だから知らなくて良いことなんて何もないと思った。革命を起こそうとする勇気をもてるかは分からないけど、何かを発信できる人生を私も生きたい。</p>	<p>そうだ。頑張れ。上でも、何度も述べたが、自分が当たり前だと思っていることが、実は、君が考えたものでなく、君がこれまで成長してくる間に、周りから吹き込まれた宣伝ではないか、という反省的視点が大事だ。</p>

<p>世の中を変えようと運動するのはとても勇気のいることだと思いますが、こういった経緯で身を投じたのでしょうか。</p>	<p>そういう状況であったからだというのが返事だ。逆に言えば、あのとき、そのような運動に身を投ぜず、何かをやらない理由を、屁理屈をのべるだけで、遊び暮らしていた学生など、何者にもならないで人生を終わるのだ。</p>
<p>共産主義思想や学生運動参加の人をはじめて生で拝見したので驚いた。実体験をまじえた講義だったのでとてもおもしろかった。</p>	<p>動物園の絶滅危惧種だな。</p>
<p>世界中で革命の機運が高まり、学生運動のさかんな時代に生きた先生だからこその話だと感じた。今の時代、私たちは”平和ボケ”の中で生きており、共産主義について深く考えたことはなかった。先生も生きる時代が違っていたら考え方も違っていたのではないのでしょうか。</p>	<p>その通りだ。同じ事の繰り返しになるが、自分の力で、他人にコントロールされたものではない思考を持つことが重要だ。人生は、一度きりだから、どの時代に生きるかということを選択できるわけではない。その意味で、私は、非常に幸運な時代に生まれたと思っている。他の時代だったら、どうしたかなどということを考えるのは時間の無駄だな。</p>
<p>冷戦終了の象徴であり、平和な世界の幕開けとして一般的には見られているベルリンの壁崩壊が、なぜ希望的認識をゆらがせたのか。</p>	<p>それは、ロシア型のプロレタリア独裁、社会主義体制が、とりあえず、敗北したからだ。勿論、ベルリンの壁の崩壊は、一つの現象に過ぎず、それに至る過程と、その後の推移には、議論すべきことは非常に多いが、とりあえず、端的に言えばそういうことだ。</p>
<p>東京大学紛争によって、国家による大学への介入（東大入試の中止）があったが、結果的に悪しき前例や学生の政治に対する意識の低下を生んだ。今、メディアの衰退も社会運動に対する意識の低下も、もはや正常な動きをしない労働組合も、社会の民衆の従順的態度も、この「1968」後の経済重視政策による、骨抜きの結果ではないか？</p>	<p>だから（もう、君たちのこの手の質問、というか糾弾に答えるのは相当うんざりしているが）、君が書いていることが端的に示しているように、学生の政治意識の低下、メディアの衰退、労働組合の崩壊などすべては、権力による徹底的な骨抜きの成果であり、君たちは、学校で教わったことをオウム返しに繰り返すことで、入学試験に受かったお利口さんたちだから、こういう決まりきったバカな話をさかしらげに繰り返すのだよ。自分で、物を調べて、考えたまえ。ひとに教わったことではなくね。</p>
<p>学生運動をしているときはどのような日本または世界になることを望んで運動をしていたのですか。</p>	<p>だから、講義でも言ったように、私は、今でも、共産主義者だから、世界が共産主義社会で統一されることを望んでいたよ。</p>
<p>面白かった。</p>	<p>ありがとう。</p>
<p>先生ご自身の思想が研究に及ぼした影響はありますか？</p>	<p>人生の後半において、私が獲得した学問は、直接の影響下にはない。しかし、どこかで通底しているものはあると自覚しているがね。</p>
<p>考え方ということについては、あまり共感ができなかったけれど、その目的のために方法論を考えるということを長くできることができたということができるとい点がすごいと思いました。</p>	<p>何度も書いたが、どうして、共感ができないか、ということきちんと考えぬかなければならない。君が、今、さかしらげに思っていることは、本当に、君の考えかい？ 親や先生や世間に吹き込まれたのではないかい？</p>
<p>メント・モリで1度先生のお話を聞いてからまた聞いてみたいと思っていたので嬉しかったです。今回スライドで紹介されていたキーワードをもっと詳しく知りたいと思いました。</p>	<p>そうだ、是非、調べてみたまえ。Wikipedia だけではダメだぜ。きちんと世界史の本を読まなければ。</p>
<p>世界の流れを改めて感じ、考えさせられた。</p>	<p>その考えを続けることが大事だ。</p>
<p>現在の日本と違って、変化の激しい日本で生活していた山口先生の話は新鮮で面白かった。</p>	<p>ありがとう。現在だって、変化は激しいのだよ。うかうかしていると、AI（を通じて、GAF A など）にすべてを奪われるぜ。</p>
<p>数十年前の事件について説明いただいたが、10分だと短いと思う。気になったポル・ポト政権については詳しく調べていきたい。</p>	<p>まったくだ。10分で済む話ではない。これを切っ掛けに勉強したまえ。</p>
<p>自分にとって浅間山荘事件やベルリンの壁の崩壊は歴史上のことであり、現実であるという感覚から遠く離れています。</p>	<p>それが、現在ボケなのだよ。歴史上のことが、現在の君を作っていることに自覚的でなければならないのだ。</p>

<p>先生はかつて学生運動をされていたようですが、今日のそういった活動についてどう思われていますか。お話にもあった、「安倍を倒しても運動を続ける」という自治会の言葉からも分かるように、彼らは自らの望む社会の到来というよりも「打倒安倍」が目的になっているような気がします。言わば、革命を起こそうとするのは自らが「転換点」になろうとする試みだと思うのですが、外から見ると「転換点」になろうとして「転換点」を目指しているように思えます。この点について先生の見解をお聞きしたいです。</p>	<p>何を聞きたいのか分からない質問だが、今、自治会と自称して活動している中核派の諸君だって、表向きは（ホントの事を言うと、君たち、一般の無自覚的學生が怖がるから）ホントのことは言わないで、とりあえず、「打倒安倍」しか言わないけれど、その核というか奥底には、共産主義がある（と信じたい、何しろ、いまでも、彼らは革命的共産主義者同盟、という看板はおろしていないのだから）。究極の目標から説いても、普通の人は怖がるだけであるから（君たちのようにね）、戦術として現体制に反対というのは当然である。</p>
<p>1960年代から1970年代にかけて時代に様々な転換点があったと感じた。</p>	<p>その通りだ。</p>
<p>共産主義という明確な政治思想を先生はお持ちですが、僕のように明確な政治思想を持っていない人間をどう思いますか？</p>	<p>そういう人が大多数だから、現在の体制が存続しているのだ。それは、上の回答で繰り返し述べたように、つまり、自分の考えというのが、何に由来しているかということに無自覚だということだ。君が、偉そうに考えている（と思っていること）は、人にそう思わされているのではないか、という疑いを持つことからすべては始まる。</p>
<p>生きた時代が信念の形成につながっていることに興味を持ちました。</p>	<p>いまだって、同じだ。</p>
<p>（※野家先生へも）大学在学中（学生運動中）にお互いに対し（運動参加者／非参加者）どのように思っていましたか？</p>	<p>物理に、背の高い活動学生がいることは知っていた。あいにく、65歳になって、総長特命教授になるまで、話をしたことはなかったがね。勿論、哲学者としての野家先生は、ここから、非常に尊敬している。</p>
<p>革命によって国や世界が簡単に変わってしまうのでも興味を持てた。</p>	<p>そうだ。革命というのは、英語で REVOLUTION というのだ。すべてのことが、コロッとひっくり返り得るのだ。ただし、人間の考えという物は、非常にしぶとく変わらないので、そのあとが大変だ、というのが、ロシア革命以来100年の経験の結論だ。</p>
<p>講義内容以外について</p>	
<p>明治維新は革命だったのか、という問いをこれまで考えていなかったのが、革命の定義について、自分でも考えてみたいと思った。</p>	<p>講義で触れたが、これは、第2次世界大戦前に遡る、日本資本主義論争という大論争で争われた論点で、平たく言えば、日本共産党の主流派に近い人たちは、革命でない、と考え、労農派と呼ばれた、戦後、社会主義者の政党に結集するひとたちは、ブルジョア革命だとしたのだ。論争は、非常に奥深く、ある意味で現在も続いているので、詳しく勉強してみたまえ。</p>
<p>「ノルウェイの森」や「されど我らが日々」を読んだが、あまり学生運動に良い印象をもっていない。ゆえに、それらを肯定する側の山口先生の話が興味深かった。</p>	<p>「されど我らが日々」とは古いな。私も高校生のとき、つまり、50年以上前に読んだけどね。あれは、学生運動というよりは、日本共産党のいわゆる極左運動時代を取り扱ったもので、世代が我々より20年くらい上なので、もう現存している人はいなくなっただろうね。「ノルウェイの森」は、ま、いわば、娯楽小説だからね（村上春樹は、なんだかんだ言たって大衆小説家だ）そんなもので、考えを決めてもらっては困る。このまえ、何かを読んでいたら、非常に高名な歴史学者であった網野善彦が、学生時代、山村工作隊で火焰瓶を投げたという記述があったが、「されど我らが日々」というのは、そういう時代の話で、その時代背景を知らないで、ただ、ロマンチックに、男の子に振られた女の子が、睡眠薬をポリポリ齧って、牛乳で飲む話だと思われるのと困るな。</p>

<p>今までの人生における決断で、後悔したことはありますか。</p>	<p>前の方の質問にも回答したが、私のモットーは、宮本武蔵の「我、ことにおいて悔いず」だから、ああすれば、もう少し違っていたかなと思うことは多いが、後悔はしないことにしているのだ。後悔しても、何も変わらんだろ。</p>
<p>何かに熱中するには？</p>	<p>まず、見る前に跳べだよ。</p>
<p>医工学という場に身を置くときの経緯を教えてください。</p>	<p>それは、話せば長くなるのだが、35歳以後に、研究者として生きてこうと思って、その時々状況と興味で研究をしていたら、そうなったんだよ。</p>
<p>国会に突っ込む際は僕も誘って下さい。</p>	<p>いいとも、名前と連絡先を知らせてまえ。</p>
<p>先生方が研究者としてのポストを得ることが出来たのは偶然によるものが多かったのか、もしくはある意味必然的なものであったのか、気になりました。</p>	<p>研究者として、それなりに、成功するために必要なのは、実は、『運』だ。良い人に巡り会うか、良いテーマに突き当たるか、それが完成した研究（すなわち論文）になるか、全ては運だ。しかし、努力しない人には、運は巡ってこないと信じている。</p>
<p>自分の良き「転換点」となるきっかけを掴みとるために実践してきたことはあるでしょうか。</p>	<p>その時々、努力することだ。転換点というのは、あとからそう思うということだ。</p>
<p>今日、欧米を中心に過激的ともいえる民族主義が台頭しているが、"Nation"という概念が存在し、我々が意識的・無意識的にそれを認める以上、人類はこの進退を繰り返すのか？</p>	<p>私は、そうではないと思っている。だから、共産主義者なのだ。Nation は、人間というものに必然的なものではないと思っている。従って、いつの日にかは、それは克服されるはずであるし、されなければならない。質問の最後だから、追加しておくが、50年前に、一世を風靡した思想に、実存主義というのがあって、その主唱者の一人である J.P.Sartre が、「実存主義はヒューマニズムである」というパンフレットを書いているが、これをもじっていえば、「共産主義は、ヒューマニズムである」のだよ。人間社会は、必ずや、共産主義社会に到達する（いつだか分からんがね）のだ。</p>